



特別編集



# 福島浜通り

巡る・伝える・結ぶ



UR都市機構

キモチ、あつまる  
プロジェクト  
2025



大熊町

双葉町

浪江町

私たちが作りました!



## 大熊町

谷田川 佐和さん  
大熊インキュベーションセンター  
コミュニティマネージャー

町外から来た企業や起業家の事業支援を行う大熊インキュベーションセンターにおいて、町内外の人々をつなぐ役割を担う。

## 大熊町

南場 優生海さん  
(株)パトン

大熊町出身。大熊町内に限らず浜通り全域で地域外からの関係人口創出や町内のにぎわい創出に携わる。

## 大熊町

菅原 正平さん  
FUN EAT MAKERS in Okuma(→P4)  
施設長

教育を目的に移住。都内での飲食店勤務の経験から食に関わる仕事に携わるため、2025年の6月に開業した野菜工場兼レストランで施設長として働く。

## 双葉町

高野 雅夫さん  
(株)サンアメニティ

双葉町産業交流センター (F-BICC) (→P5)の指定管理者である「株式会社サンアメニティ」でイベントや施設管理・運営に取り組む。

## 双葉町

小泉 良空さん  
(一社)ふたばプロジェクト

大熊町出身で、現在は双葉町のまちづくり会社「一般社団法人ふたばプロジェクト」で東日本大震災・原発事故の伝承事業や情報発信に取り組む。

## 浪江町

舩倉 美津枝さん  
町民

浪江町請戸地区の出身。震災後は避難生活を経験後、ふるさとである浪江町へ帰町。ツアーや講演会などで自身の経験を伝授する活動に取り組む。

6年目を迎える  
おおくまハチドリプロジェクトなど、  
やったことのない仕事ばかりで、  
シンプルに仕事が  
メチャ楽しいです。

地域プレイヤー

大熊町  
谷田川 佐和さん

## linkる大熊



多目的のホールなどがある施設(MAP P8C3)。で、大熊町の復興について学ぶ



クマSUNテラス(→P4)のカフェ「panier」のお弁当でランチを

「まちづくりとは? 復興とは?」  
と考えると、町の人が  
ちょっと黙歩している、走っている、  
そういう人が増えてくると  
復興してきたと感じます。

地域プレイヤー

双葉町  
高野 雅夫さん

## ふたば飲み P5



地元の人との交流を楽しみ、ツアー参加者同士の親睦を深めた

浪江町

## 道の駅なみえ P6



復興のシンボルとして親しまれる道の駅

大熊町

## FUN EAT MAKERS in Okuma (ノキシタキッチン) P4



人気のクリームブリュレをみんなで満喫

浪江町

## JR 浪江駅周辺 視察 2日目



JR浪江駅周辺のまちづくりを学ぶ

施設内で育てた野菜をレストランで楽しめる



双葉町

## 双葉町 産業交流センター (F-BICC) P5



ランチは2階の「レストランエフ」で、福島県産の豚を使用した人気メニューのふたば丼を



双葉町の特産品「双葉ダルマ」。販売もされている



施設の屋上から復興が進む町を見渡す

## 東日本大震災・原子力災害伝承館 P5



放射線を計測する経験も

## 中間貯蔵事業 情報センター P4



施設の説明を聞く学生たち

浪江町

★宿泊

## 福島いこいの村なみえ P6



学生が宿泊した施設。本館とコテージタイプがある

「常備もの」を中心とした夕食



浪江町

## 震災遺構 浪江町立請戸小学校 P6



ほとんど空っぽになってたけど、元の浪江に戻ってほしい。交流人口や観光客を含めて、早く若い人たちにも戻ってほしいです。

地域プレイヤー

浪江町  
舩倉 美津枝さん

地域プレイヤー

双葉町  
小泉 良空さん

## キモチ、あつまる プロジェクト2025

## スタディツアー

# 福島県浜通りの復興・まちづくりを体感!

独立行政法人都市再生機構(UR都市機構)はこれまで培ってきたまちづくりの経験やノウハウ等を活かし、原子力災害からの復興まちづくり支援に取り組んでいます。UR都市機構では、支援地域の関係人口の増加等を目的に、「キモチ、あつまるプロジェクト2025」として学生向けのスタディツアーを実施しました。ツアーには全国から15名の学生が参加。東日本大震災、原子力災害被災地域を訪れ、復興・まちづくりに携わる人々との出会いを通じて、現地での課題、未来への希望を知る、創る、学ぶ、貴重な機会となりました。

地域プレイヤーとは? 交流人口・関係人口の創出・拡大や、中心部ににぎわい・交流作りに活躍する地域の人のこと。今回、学生に向けて活動内容や熱い思いを話していただきました!

## スタディツアー

1日目	JR双葉駅 集合
	双葉町産業交流センター(F-BICC)
	東日本大震災・原子力災害伝承館
	震災遺構 浪江町立請戸小学校
	中間貯蔵事業情報センター
	福島いこいの村 なみえ
2日目	JR浪江駅周辺 視察
	道の駅なみえ
	linkる大熊
	大熊町 下野上地区 視察
	FUN EAT MAKERS in Okuma (ノキシタキッチン)
	双葉駅西側地区 視察
	ふたば飲み
3日目	CREVA おおくま
	JR大野駅 解散

ワークショップ開催!



①双葉駅の西側では住宅の整備が進み、東側には町役場や商業施設などの整備が進む

#### URの復興まちづくり支援

URが基盤整備を行う中野地区では産業施設等が立地する「働く拠点」が形成されつつあります。双葉駅周辺では「住む拠点」のための基盤整備のほか、既存建物の改修支援等も行っています。

イメージキャラクター

フタバくん



七転び八起きで町の復興を。ダルマを目玉とした町の活性化・PRに活躍中

双葉町ってこんなところですよ！

最寄駅：JR常磐線双葉駅

特産品：双葉ダルマ、ダキシメフタバ(タオル)

イベント：双葉町ダルマ市(1月)

## 復興に向け、いろんな人や想いがつながるまち

# 双葉町

ふたばまち



双葉町には、学びの場、つながりの場がたくさんある。まちづくりのキーワードは「もとからあるものを使う」。懐かしさを感じられるような風景が作られている双葉の今を訪ねに行こう。

## 双葉駅周辺

残す物は残すー。駅からはじまる復興まちづくり

### 旧双葉駅舎

●きゅうふたばえきしゃ

☎090-7247-3445

(一般社団法人ふたばプロジェクト)

MAP P8A2

地元の団体ふたばプロジェクトが運営している施設。一部避難指示解除後、町民や来町者への情報提供、ふれあいの場として利用されている。この町を元気づけた証に入町証明書がもらえるので、お越しの際はぜひ！

③双葉町長塚町西39-2④JR双葉駅からすぐ⑤9～17時⑥無休⑦双葉駅に隣接する公営無料駐車場を利用



まちの魅力を発信＆来訪者への総合案内！

④JR双葉駅に隣接

⑤入町証明書をゲットしよう

### 移住の第一歩をサポート まずは相談から！



④大正11年(1922)建造の洋館。国の有形文化財

### 双葉町移住定住相談センター (旧三宮堂田中医院診療所)

●ふたばまちいじゅうていじゅうそうだんせんたー  
(きゅうさんのみやどうたないんしんりょうじょ)

☎080-1752-9353 MAP P8A2

町の歴史を伝承する旧診療所の文化財を活用し、移住相談を行っている。また町民同士の交流の場としても活用している。

③双葉町長塚町12④JR双葉駅から徒歩2分⑤9～17時(土・日曜、祝日は予約制にて面談を受付)⑥土・日曜、祝日⑦3台

## FUTAHOME

●ふたほめ

☎なし MAP P8A2

2025年2月にオープンした地域の活動拠点で1階はカフェ・チャレンジスペース、2階はコワーキングスペースとして利用できる。ふらっと来て働けることが特徴で、地元によるワークショップや飲食交流イベントなども行われる。

③双葉町長塚町45-1④JR双葉駅からすぐ⑤9～18時⑥日曜⑦7台



④さまざまなプロジェクトが進行中！

## 中野地区復興産業拠点

まち復興の先駆けとなる「働く拠点」を整備

### 東日本大震災・原子力災害伝承館

●ひがしにほんだいいんざい・げんしりょくさいがいいでんしやうかん

☎0240-23-4402 MAP P8C2

地震と津波による被災状況や原子力発電所事故後の対応など複合災害について学べるだけでなく、被災者の思いを知ることができる施設。語り部が毎日講話し、それぞれの視点で自身の体験を伝えている。

③双葉町中野高田39④常磐自動車道常磐双葉ICから車で10分⑤600円⑥9～17時(最終入館は16時30分、語り部講話は10時～、1日4回、所要40分)⑦火曜(祝日の場合は翌平日)⑧111台



④日常が突然失われたことを伝える「県民の想い」ゾーン

双葉町のことを学ぼう



産業振興と観光交流で新しい双葉町へ

③会議室などもある複合施設



### 双葉町産業交流センター (F-BICC)

●ふたばまちさんぎょうこうりゅうせんたー(えふびつく)

☎0240-23-7212 MAP P8C2

1階にはみやげ店のほか、2023年8月にコンビニエンスストアがオープン。2階にはレストランがあり、名物の豚丼を楽しめる。また、屋上では双葉町全体や太平洋を見渡すことができる。

③双葉町中野高田1-1④JR双葉駅から車で5分⑤⑥店舗施設により異なる⑦265台



④双葉町産業交流センター前で開催

### ふたば飲み

ちいさな一歩プロジェクト主催のイベントに参加しました！

年に数回、地域の人々が集まり交流できるイベントをちいさな一歩プロジェクトが開催している。実際に参加してみて、「震災前はほかの地域と変わらず多くの家があり、普通の生活をしていた」ということをあらためて感じた。そして、復興が少しずつ進んでいる今、多くの世代が参加していて、とてもにぎやかな交流により小さな一歩を踏み出していると思えた。

主催 ちいさな一歩プロジェクト事務局



①大川原地区にはlinkの大熊などの公共施設や、早期帰還を希望する町民のための公営住宅が整備された

#### URの復興まちづくり支援

URは平成29年(2017)に大川原地区の復興まちづくり事業に着手し、町役場やlinkの大熊等が立地。下野上地区ではURの基盤整備も終盤を迎え、多くの施設が立地しつつあります。

イメージキャラクター

まあちゃん



真っ白なお腹の毛がチャームポイント。性格は甘えん坊。町民の絆維持に奔走中

大熊町ってこんなところですよ！

最寄駅：JR常磐線大野駅

特産品：イチゴ、キウイ

イベント：大熊町ふるさとまつり(11月)

## 原発事故を乗り越え、真の復興へ

# 大熊町

おおくままち



JR大野駅周辺を中心とする下野上地区や大熊町役場がある大川原地区などを中心に、新たな施設や住宅が完成。地域住民の交流や文化活動、観光振興など、にぎわいの拠点として注目を集めている。

さまざまな交わりが生まれる場が  
2025年3月オープン！

### クマSUNテラス/ CREVA おおくま

●くまさんてらす／くれぱおおくま

☎0240-41-9948

(クマSUNテラス管理事務所)

☎0240-41-9959

(CREVAおおくま管理室)

MAP P8A2

JR大野駅西口側に立つ2つの施設は、復興を目指す大熊町のシンボル。「クマSUNテラス」には飲食店やコンビニ、「CREVAおおくま」には企業の事務所や中間貯蔵事業情報センターなどがある。

③大熊町下野上大野116-6(クマSUNテラス)、116-5(CREVAおおくま)④JR大野駅からすぐ⑤クマSUNテラス飲食店11～21時(店舗により異なる)、CREVAおおくま8～20時⑥無休(設備メンテナンス、その他臨時休館日あり)⑦191台

#### CREVA おおくま



④木材がふんだんに使用されている



④屋上からは大野駅周辺のにぎわいを一望できる



④開放的な空間

#### クマSUNテラス

芝生広場ではイベントも開催される



④飲食店5軒のほか、文具店などもある



④コンビニやキッズルームも完備



④施設内で水耕栽培されるリーフレタス

④人気のクリームブリュレ



毎日新しい味に出合える！  
日替わりが楽しいレストラン

ここで育てたおいしい野菜を福島ブランドとして出荷し食べてもらいたいです

④一つ屋根の下にさまざまな施設がつながる



### FUN EAT MAKERS in Okuma

●ふあん いーとめーかーず いん おおくま

東京のIT企業コネクタアラウンドが運営する農業複合施設。2025年6月にオープンしたレストラン「ノキシタキッチン」では、福島県産の食材を使った日替わりの料理を半ビュッフェスタイルで楽しめる。施設内で栽培された食材も使用され、「農と食」が直結した一皿が味わえる。食後には、「ライブラリースペース」でゆったりと過ごすのもおすすめ。大熊町での新しい食のスタイルを体験してみてください。

③大熊町下野上原94-5④JR大野駅から車で5分⑤11～16時⑥土・日曜、祝日⑦20台



④車窓からの風景

私が案内します！



たくさんの人に実際に来てもらい、少しずつ再生している大熊町を知ってほしいです

④松永さん



リアルな現場から学ぶ  
特別なツアーに  
参加しよう！

④中間貯蔵施設を見学するツアー

### 中間貯蔵事業情報センター

●ちゅうかんちょうじぎょうじょうほうせんたー

CREVAおおくま内にあり、中間貯蔵事業、除去土壌の復興再生利用など、福島の復興・環境再生の取組を発信する施設。帰還困難区域内の普段は入れないエリアをバスで見学するツアーでは、被災前のまま残されている特別養護老人ホームなどの見学、放射線量の測定体験などを通して、区域の現状を知り、土壌の再生利用の必要性和安全性を学べる。

☎0240-25-8377

MAP P8A2

③大熊町下野上大野116-5(CREVAおおくま内)④JR大野駅からすぐ⑤無料⑥9～17時(最終入館は16時30分)※見学ツアーは事前予約制。1グループ5名から催行。所要約1時間30分～⑦火曜(祝日の場合は翌平日)⑧191台(クマSUNテラス/CREVAおおくま)

突然あたりまえの日常が奪われて、まだ本来の場所に戻れないにもかかわらず、みんな笑顔で励ましあっていて、すごくステキな地域だと感動しました。  
地元の人こそが「地域の光」なのだと思います。

N.W.さん(埼玉県)

「大人の声しかしい街」という中間貯蔵施設の方の言葉が心に残っています。復興とは、近所を散歩する、買い物をする、お隣さんがいるという日常の風景が戻ってくること。その風景をどう取り戻していくかを、自身の学びに活かしたいと思っています。

T.H.さん(大阪府)

津波のこと、原発事故のことなど当時を知らない世代が増えていくなかで、学生のうちに浜通りを訪れることはとても大切なことだと思います。現地の様子を見て、地元の方や移住者の方の話を直接聞くことで、防災への意識が高まるほか、新しいことに挑戦する意識にもつながると思うので、みなさんもぜひ訪れてみてください。

Y.T.さん(神奈川県)

今回のツアーに参加する目的の一つに「復興とは？」という問いの答えを見つけることを考えていました。学生がここを訪れるなら、それぞれ訪問の目的を明確にし、実際に訪れることで、その答えとなるものを自分の中で見つける時間にしてほしいと思います。

M.T.さん(東京都)

昨年訪れたときより、復興が進んでいると思いました。「復興」にはいろいろな人のいろいろな考えや願いが込められ、それぞれが思うゴールに向けて日々行動していると感じました。今回の旅で私自身が関係人口として双葉郡と関わることができ、一度得たつながりを今後も絶やさないようにしていきたいです。

M.S.さん(神奈川県)

震災前から住んでいた人も移住してきた人も同じコミュニティの中で、同じ方向を向きながら、それぞれの活動を行っており、「人のつながり」を感じました。お話を聞いたすべての方から「よりよい町にしよう」という強い気持ちが伝わり、それこそが町の復興や活性化につながるのだと感じました。

F.S.さん(東京都)

熊本地震を経験した私にとって、防災や復興は身近なテーマでしたが、福島を訪れて放射性廃棄物や中間貯蔵施設など、「長期にわたって向き合わなければならない課題」があることを実感しました。

S.T.さん(熊本県)

実際に訪れてみて、自身の経験で「記憶にある」ことや、テレビ放送などで「知っている」ことが180度変わる経験ができたと思います。実際に訪れて、震災のことだけでなく、復興にかける思いや生き方にも注目してほしいです。

S.H.さん(埼玉県)

**キモチ、あつまる プロジェクト2025 スタディツアー**

**私たちが感じたこと!**

3日間のスタディツアーに参加して、さまざまなものを見て、聞いて、学んだ 学生たちの思いをご紹介します!

**イメージキャラクター うけどん**

浪江町生まれのお米の妖精。おもちの体にイクラの髪優しい女の子

浪江町ってこんなところですよ!

**最寄駅**：JR 常磐線浪江駅  
**特産品**：請戸もの(新鮮な魚介類)、大堀相馬焼  
**イベント**：なみえ町十日市祭(11月)

時をつむいで未来へ

# 浪江町

なみえまち

海から山まで東西に広がる町で、双葉郡の中で最も面積が広い。請戸ものやなみえ焼そばなど名物グルメも多く、道の駅なみえを中心に観光復興が進む。JR 浪江駅前では新しいまちづくりが進行中。

**新たな駅前構想**

©Kengo Kuma & Associates

**未来デザイン都市 浪江**

震災からの復興を歩み続ける浪江町。その玄関口となるJR浪江駅前に隈研吾氏設計の木質感あふれる新たな施設が2028年に誕生する予定。観光案内やカフェ、地域交流やイベントスペースなどを備え、人々が集い、憩い、未来へとつながる拠点としての活躍が期待されている。ここから浪江のまちづくりは新しい一歩を踏み出す。

浪江駅周辺整備事業では、東西自由通路、駅舎、展望テラス、交流施設、商業施設、芝生広場などがあるまちづくりが検討されている

浪江駅周辺地区一団地の復興再生拠点市街地形成施設事業 浪江町周辺整備事業 市街地イメージ図

駅前には「高原の駅よさうなら」の歌碑(MAP P8B1)が立ち、メロディが流れる

**現在の浪江駅**

浪江駅 歌碑

JR常磐線

福島の村なみえ

復興の象徴として地元の人々と旅行者をつなぐ場所。ご当地グルメ「なみえ焼そば」が人気のフードコート、地元の産品が買える直売所のほか、酒蔵見学もできる。併設する「ラッキー公園」にはふくしま応援ポケモン「ラッキー」の巨大遊具もあり、家族連れに人気。

浪江町幾世橋知命寺60 JR浪江駅から車で3分 10～18時(店舗により異なる) 毎月最終水曜 103台

**地酒**

Sake Kura ゆいでは鈴木酒造店による浪江の地酒も販売

**甘酒ソフトクリーム**

甘酒特有のほのかな香りと甘み特徴の甘酒ソフトクリーム

**大堀相馬焼**

伝統工芸品も購入できる

**海産物や野菜など産直品を購入できる**

**震災の教訓を伝える**

**震災遺構 浪江町立請戸小学校**

●しんざいこう なみえちようりつうけどうがっこう

☎ 0240-23-7041 MAP P8C2

**教** 員の的確な指示により学校にいた教員・児童全員が1.5 km離れた大平山に無事避難することができた学校として知られる。「防災意識向上」を目的とし、2021年から一般公開されている。

浪江町請戸持平56 JR浪江駅から車で10分 300円 9時30分～16時30分(最終受付は16時) 火曜(祝日の場合は翌日) 20台

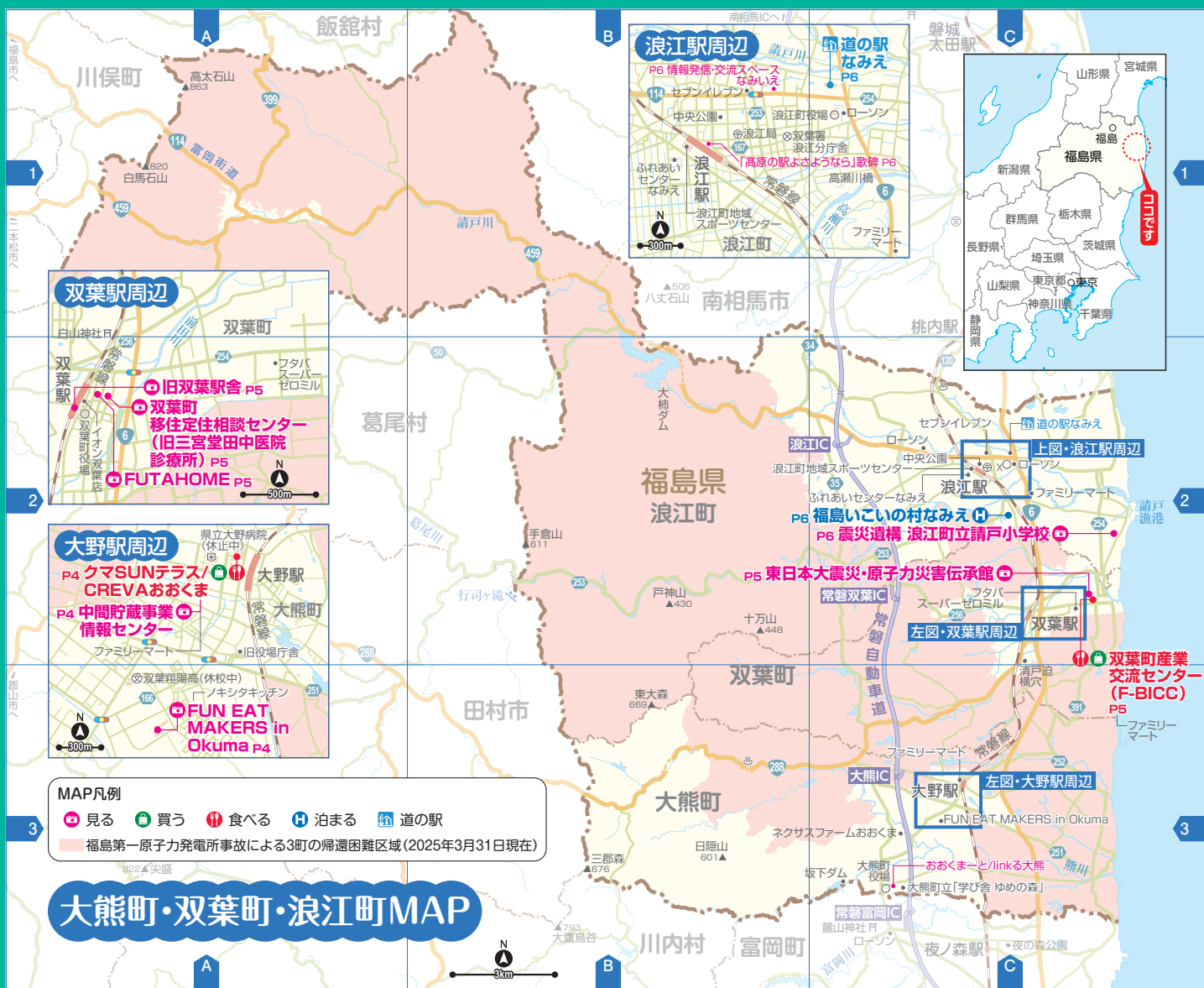
**自然災害の脅威と避難の重要性を体感**

震災の脅威を伝えるため、災害当時の状況を残したまま保存

3月11日の時間経過と避難の状況がリアルに伝わる

2階の高さまで津波が到達した

ルートに沿って見学すると、避難の時系列がわかる



## キモチ、あつまるプロジェクト2025 スタディツアーを終えて

(UR職員後記)

今年のツアーは、復興に携わる地域プレーヤーのみなさんとの交流や新しくオープンした施設をご観いただくだけでなく、浪江町、双葉町、大熊町のハード、ソフト両面でのURの復興まちづくり支援を、学生のみなさんにより近い感覚でお伝えしたいと思い、ツアー参加学生と世代に近いUR若手職員から説明をさせていただきました。

現地を巡り、学んだ参加学生のみなさまが想いを込めて構成を考えていただいたおかげで、素敵なものに仕上がりました。

URは、福島復興をより多くの方に知っていただくこともURの復興まちづくり支援のひとつであると考えています。引き続き、さまざまな形で伝えてまいりたいと思います。

ツアー実施にあたり、多大なるご協力をいただきましたみなさまに心より感謝申し上げますとともに、ひとりでも多くの方々がこの「るるる特別編集」を手にとって、福島復興を見たい、URの復興まちづくり支援を知りたいと思っていただけることを願っております。

## スタディツアーUR職員

勝谷 亜子	盛合 一功
河田 成夢	吉村 萌香
原 楓里	
廣瀬 悠人	佐藤 遙
西岡 遼也	田中 虎次郎
	石橋 拓海

—— 社会課題を、超えていく。——

**UR 都市機構**

写真協力…Harty (熊谷祐治) / 新潮社

発行 独立行政法人都市再生機構(UR都市機構)  
企画・編集・制作 JTBパブリッシング

©2025 UR都市機構 /  
JTB Publishing All Rights Reserved.

※本誌掲載のデータは2025年10月末のもので、発行後にデータが変更になる場合がありますので、お出かけの際には電話等で事前に確認されることをおすすめいたします。なお、本誌掲載内容による損害等は補償いたしかねますので、あらかじめご了承くださいますようお願いいたします。※本誌掲載の入園料などは大人料金を掲載しており、原則として取材時点で確認した消費税込みの料金です。※定休日は原則として年末年始・お盆休み・ゴールデンウィークを省略しています。※利用時間は特記以外原則として開店(館)～閉店(館)です。オーダーストップや入店(館)時間は通常閉店(館)の30分～1時間前ですのでご注意ください。※交通の所要時間はあくまでも目安です。天候の影響や季節により変動する場合がありますので、お出かけの際には各交通機関にお問合せください。※本誌に掲載した地図の作成にあたっては、国土地理院数値地図(国土基本情報)を加工しています。